

# 幼児期の教育と小学校教育の接続について

# 幼児期から大学までの体系的な教育の実施

- 義務教育及びその後の学校教育の基礎を幼児期から培うことが必要
- 教育基本法・学校教育法において、幼稚園からはじまり大学に至るまで学校として体系的な位置づけがなされている
- 「小1プロブレム」等の課題を踏まえ、幼稚園、保育所及び認定こども園と小学校との連携を一層強化し、子どもの学びの連続性を確保することが重要

→幼稚園教育要領の改訂

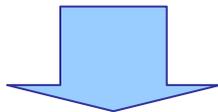
## ○教育基本法(抄)

### 第6条

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、**体系的な教育**が組織的に行われなければならない。(以下略)

(幼児期の教育)

第11条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。



○学校教育法の改正において、学校種の規定順を子どもの発達段階に即して見直し、**幼稚園を最初に位置づけ**。

## ○学校教育法(抄)

第22条 幼稚園は、**義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの**として、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

## 《幼稚園・保育所等と小学校との連携の例》

県・市教育委員会が中心となり、小学校教員の幼稚園等への長期(1年)派遣、合同研修等を実施

小学校と近隣の幼稚園・保育所が協力し、教職員の相互交流や指導の在り方の協議を実施

幼稚園・小学校教員、保育士が合同で、教育実践をもとに「幼児教育研究事例集」を作成

共通で作成した年間計画のもと、保幼小の子どもたちが定期的に相互に交流

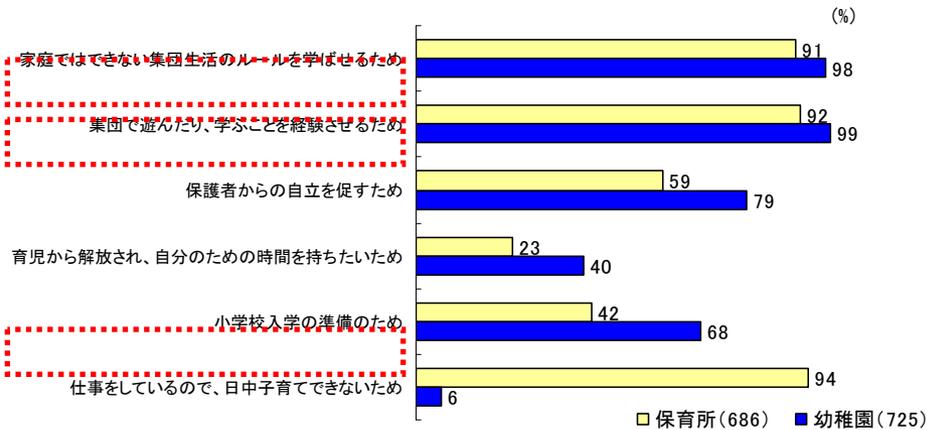
→国として連携事例集を作成し、連携を促進

# 幼児教育に対する国民の期待

- 保護者には、幼稚園・保育所を通じ、家庭ではできない「集団教育」としての幼児教育への要望が高い
- 一方、共働き世帯の増加などにより、「子どもを預かってほしい」という保育ニーズも存在

「集団生活を学ぶこと」が幼稚園・保育所の保護者に共通した大きな理由

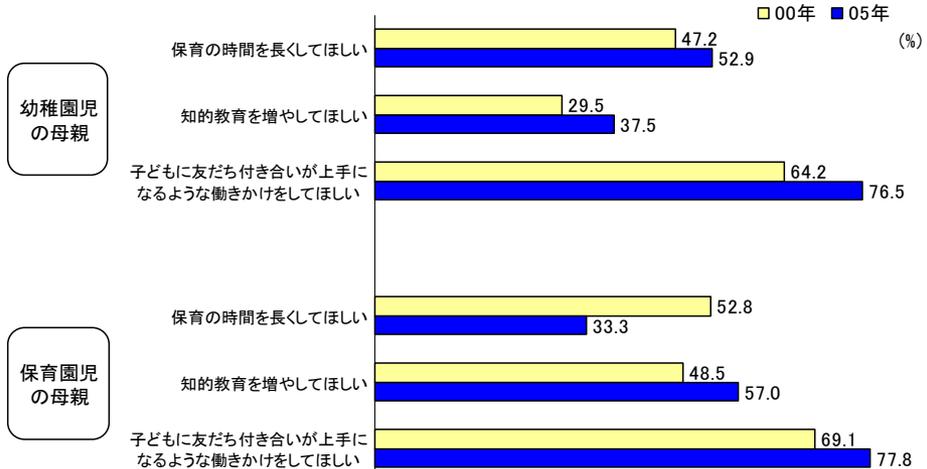
保護者が子どもを園に通わせる理由



出典：財団法人ソニー教育財団「保育に関する意識調査」

保育サービスの充実を求める保護者からの要望は大きい

幼稚園・保育園への要望(就園状況別 5年比較)



※「とてもそう思う+まあそう思う」の%  
※母親の回答のみ分析

出典：ベネッセ教育研究開発センター「第3回幼児の生活アンケート」

# 幼児期の教育の特質①

## 「環境を通して行う教育」を基本とする

- 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開（幼児は安定した情緒の下で自己発揮をすることにより発達に必要な体験を得ていく）
- 遊びを通しての指導を中心として幼稚園教育要領・保育所保育指針に示すねらいが総合的に達成されるようにする（「遊び」は、幼児にとって重要な「学習」）
- 一人一人の発達の特性に応じる

※環境とは物的な環境だけでなく、教師や他の幼児も含めた幼児の周りの環境すべて

# 幼児期の教育の特質②

遊びを通した総合的な指導 ーものを転がして遊ぶことを楽しむー

\* 様々な斜度、素材で試す

\* 転がり方(摩擦・回転など)に関する発見

\* 友達と  
かかわる

\* 順番にする

\* 意見の対  
立と葛藤

\* 片付けを  
する



\* 互いに観察  
する

\* アイデア  
を出し合う

\* 友だちに説  
明する

\* 友だちに  
話す

教師は、子どもの知的好奇心、興味や関心を喚起し、子どもと「もの」や「人」、「状況」とのかかわりがより豊かになるように環境を構成し、援助していく。

# 発達の側面からまとめた5つの領域

## 心身の健康に関する領域

**健康**：健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

## 人とのかかわりに関する領域

**人間関係**：他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。

## 身近な環境とのかかわりに関する領域

**環境**：周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

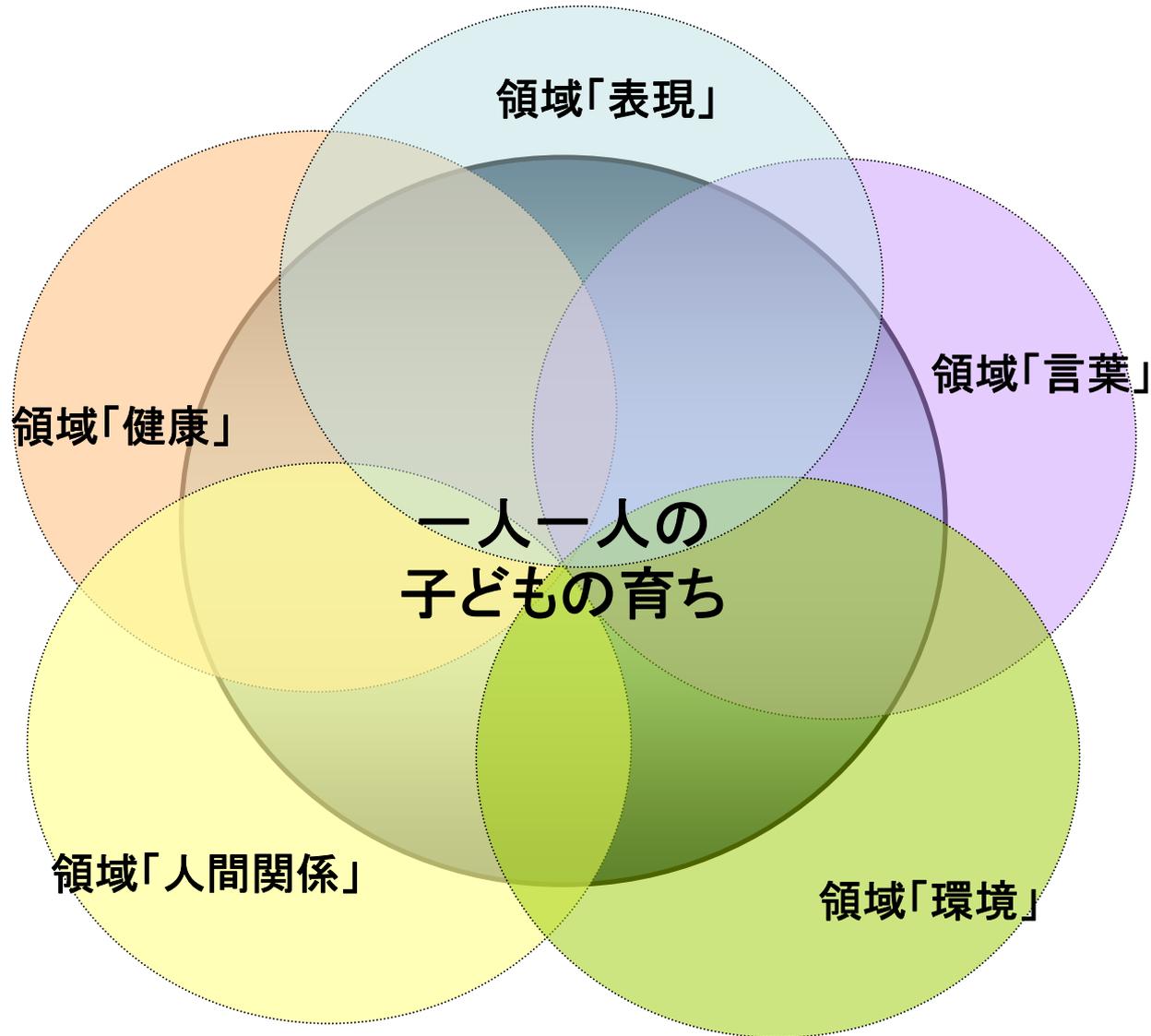
## 言葉の獲得に関する領域

**言葉**：経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

## 感性と表現に関する領域

**表現**：感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

# 子どもたちの育ちと5領域(イメージ図)



生きる力の基礎を育成

※発達の側面から5つの領域を示している。これらは、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものである。

## 第2章 ねらい及び内容 人間関係

### 内容

- (7) 友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。

### 内容の取扱い

- (3) 幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

※保育所も同様の内容

保育所保育指針 第3章 保育の内容

1 保育のねらい及び内容 (2) 教育に関わるねらい及び内容

イ人間関係

⑦友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。

⑧友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。

# 協同して遊ぶとは

友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。

## 幼児期前期(特に3歳児・4歳児)

同じ場所に一緒にいることや同じことをすることで、様々な感情を共有し、様々なことを体感しながら、人とつながる喜びや共にいることの喜びなどの協同性の芽が生まれる中で、自発性もはぐくまれてくる。

仲間関係ができてくるようになると、幼児は、自分の思いやこだわりを積極的に他の幼児に言葉や身体で伝えようとする。

自分の世界を相手と共有したいと思い、相手に賛同したり折り合っていくことを学ぶ。

## 幼児期後期(特に5歳児)

一つの目的を共有し、それを実現しようと、自分の役目や役割を考え、新しいアイデアや遊びのルールを生み出しながら、協同して遊びや作業を進めていくことができるようになる。

# 幼稚園教育要領における「接続」の記述

## 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

### 第1 指導計画の作成に当たっての留意事項

#### 1 一般的な留意事項

(9) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

#### 2 特に留意する事項

(5) **幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。**

※保育所も同様の内容

保育所保育指針 第4章 保育の計画及び評価

1 保育の計画

エ 小学校との連携

(ア) 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮すること。

# 幼小連携 (活動事例)

幼児、児童双方が育つこと、育ったことを身近に感じられ、互いにとって意味のある活動となることが大切。

(育ちの互惠性)

1 活動名 あきのたからものまつりをしよう

2 ねらい [幼児]小学校1年生や幼稚園、保育所の友達と一緒に、いろいろなゲームに参加して楽しく遊ぶ。

目 標 [児童]相手意識をもって幼児に優しく接するとともに、お店の運営を通して、自分の役割を果たす。

幼稚園・保育所	活動の流れ	小学校
■ 幼児の活動 ○ 教師・保育士の援助		■ 児童の活動 ◇ 教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自分の靴やコートを片付ける。</li> <li>○ 自分の持ち物の始末を忘れていないか確認する。</li> <li>○ 体育館に入ったら並ぶように知らせる。</li> </ul>	1 活動のめあてを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 整列して、幼児を暖かく迎えるよう支援する。</li> <li>■ 自分のお店やつくった物をわかりやすく紹介するために大切なことや、幼児と一緒に楽しく遊ぶために大切なことを確認する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ みんなで元気にあいさつする。</li> <li>■ 整列し、活動のめあてなどのお話を聞く。</li> </ul>	2 「はじめのかい」を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 司会者の号令を合図に全員であいさつする。</li> <li>■ 代表者が、歓迎の言葉を述べる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ いろいろなお店に興味をもち、どんなことをするのかなど、たからものまつりに興味をもち、小学生の話聞く。</li> <li>○ 話をしっかり聞いているか確認し、見守る。</li> </ul>	3 自分のお店のPRを行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自分のお店の紹介や楽しさ、よさをわかりやすくまとめ、幼児に伝える。</li> <li>◇ お店のポスターを示したり、実演したりして、30秒ほどのPRを行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各ゲーム屋さんのルールを知り、自分の興味をもったお店に行き、挑戦して楽しむ。</li> <li>○ ルールを理解していない幼児には、お店の人に聞くように促す。</li> <li>○ 同じ店に幼児が集中した場合は、他の店にも目を向けられるよう声をかけるなどの援助をする。</li> <li>○ 積極的にかかわれない幼児には、一緒に行動し、「どのゲームをしてみたいのか」と声をかけたり、友達に誘ってもらえるように援助したりする。</li> <li>○ 幼児が楽しんでいる場合には、見守る。</li> <li>○ 周りの友達の行動に目を向けさせる声かけをし、意欲を高めるようにする。</li> <li>○ 教師も幼児と一緒にゲームに参加する。</li> </ul>	4 交流を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自分の準備したお店の店番を知らせ、幼児の声をかけたり、ルールや遊び方を教えてあげたりして、交流を深める。</li> <li>◇ 運営で苦労しているお店や、お客さんが集まらずにいるお店にアドバイスを与えるなどの支援を行う。</li> <li>◇ 「幼児たちに喜んでもらうために」というめあてをもって活動できるよう支援する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さかなつり屋①</li> <li>・さかなつり屋②</li> <li>・くじびき屋</li> <li>・どんぐりつかみ屋</li> <li>・めいる屋</li> <li>・パチンコ屋</li> <li>・ボウリング屋</li> <li>・しゃしん屋</li> <li>・めくってあてようゲーム など</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大きな声でお礼の言葉や、帰りのあいさつをする。</li> <li>○ たからものまつりに参加して楽しかった気持ちや感謝の気持ちを言葉で表現するよう援助する。</li> <li>○ 忘れ物がないか確認する。</li> </ul>	5 「おわりのかい」を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 代表者が、交流の感想やお礼の言葉を発表する。</li> <li>■ 司会者の号令を合図に全員で幼児にありがとうの気持ちを伝える。</li> <li>◇ 感謝の気持ちや再会を楽しみにする気持ち、これからも仲良くしていこうという気持ちを表現させる。</li> </ul>

# 幼児期の教育と小学校教育の接続事例

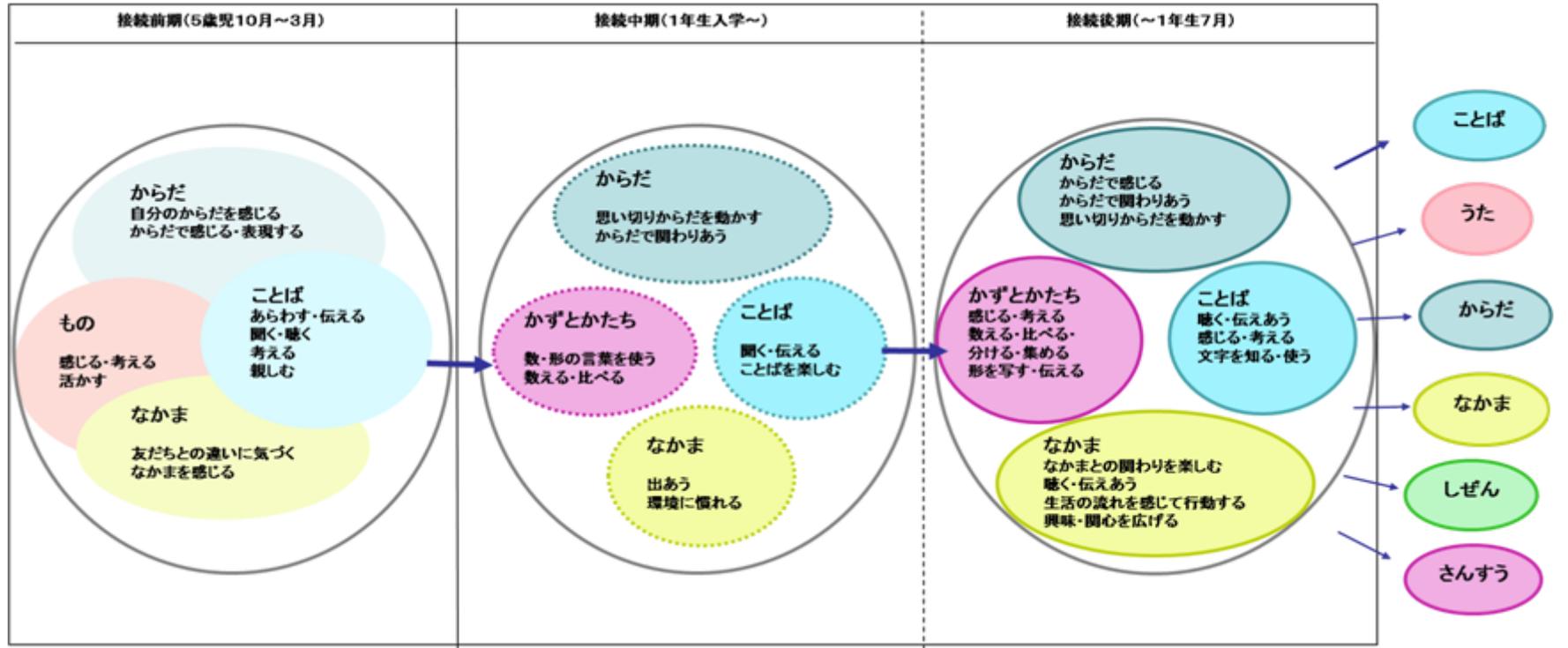
—お茶の水女子大学附属幼・小—

**接続期:** 人との関係や周囲の環境が大きく変化することに伴い、子どもたちの戸惑い・不安・期待・緊張などを、  
教師が丁寧に受け止め支えながら、教師と友だちとの豊かな関わりを基盤に、主体的に学ぶ姿勢を育む時期

## 各接続期のねらい

<b>接続前期</b>	5歳児10月～3月	関わりを広め、深める。小学校生活に向け、体験の共有化をはかる。
<b>接続中期</b>	小学校入学～	幼稚園から小学校生活へ安心して移行し、自分を表現できるようにする。
<b>接続後期</b>	～小学校1年7月	知への興味を耕し、自分で考え学んでいこうとする姿勢を伸ばす。

## 幼・小接続期保育分野・学習分野関係構想図



# 幼稚園・小学校教育の特徴(「違い」)

## <教育の特徴>

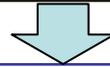
	幼稚園	小学校
教育のねらい・目標	方向目標 (「～味わう」「感じる」等の方向づけを重視)	到達目標 (「～できるようにする」といった目標への到達度を重視)
教育課程	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
教育の方法等	個人、友達、小集団 「遊び」を通じた総合的な指導 教師が環境を通じて幼児の活動を方向づける	学級・学年 教科等の目標・内容に沿って選択された教材によって教育が展開

## <教育要領・学習指導要領>

幼稚園	小学校	
	低学年	中・高学年
健康 人間関係 環境 言葉 表現	国語	国語
	算数	算数
	生活	理科
		社会
	音楽	音楽
	図画工作	図画工作
	体育	体育
		家庭
	道徳・特別活動	道徳・特別活動・総合的な学習の時間等

# 小学校学習指導要領と幼稚園教育との関係

幼稚園の教育  
義務教育及びその後の教育の基礎を培う



## 小学校

### 生活科 第3 指導計画の作成と内容の取扱い (3)

国語科、音楽科、図画工作科など他教科等との連携を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に、第1学年入学当初においては、生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をすること。

#### 国語科

##### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い (6)

低学年においては生活科などの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、**幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。**

#### 音楽科

##### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い (4)

低学年においては生活科などの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、**幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。**

#### 図画工作科

##### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い (5)

低学年においては生活科などの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、**幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。**

他の教科

道徳

総合的な学習の時間

特別活動

外国語活動

# 生活科改訂の趣旨及び要点（生活科解説）

## 生活科 第1章総説 2生活科改訂の趣旨（2）改善の具体的事項 解説

(オ) **幼児教育から小学校への円滑な接続を図る**観点から、入学当初をはじめとして、生活科が中心的な役割を担いつつ、他教科等の内容を合わせて生活科を核とした単元を構成したり、他教科等においても、生活科と関連する内容を取り扱ったりする合科的・関連的な指導の一層の充実を図る。また、児童が自らの成長を実感できるよう低学年の児童が幼児と一緒に学習活動を行うことなどに配慮するとともに、教師の相互交流を通じて、指導内容や指導方法について理解を深めることも重要である。

## 生活科 第1章総説 3生活科改訂の要点（2）内容及び内容の取扱いの改善 解説

### ⑤幼児教育及び他教科との接続

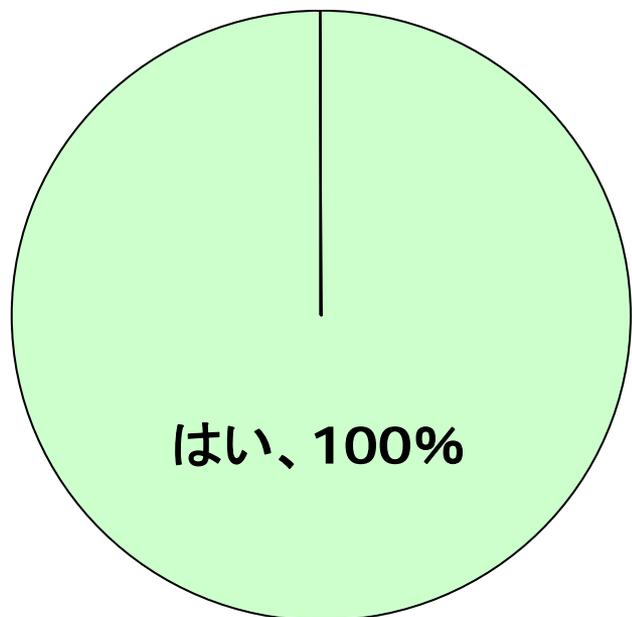
幼児教育との接続の観点から、幼児と触れ合うなどの交流活動や他教科等との関連を図る指導は引き続き重要であり、特に、学校生活への適応が図られるよう、合科的な指導を行うことなどの工夫により第1学年入学当初のカリキュラムを**スタートカリキュラム**として改善することとした。（以下省略）

# 1、幼稚園と小学校における教育が接続する事は重要であると思うか

〔 文部科学省:平成21年12月調べ 〕

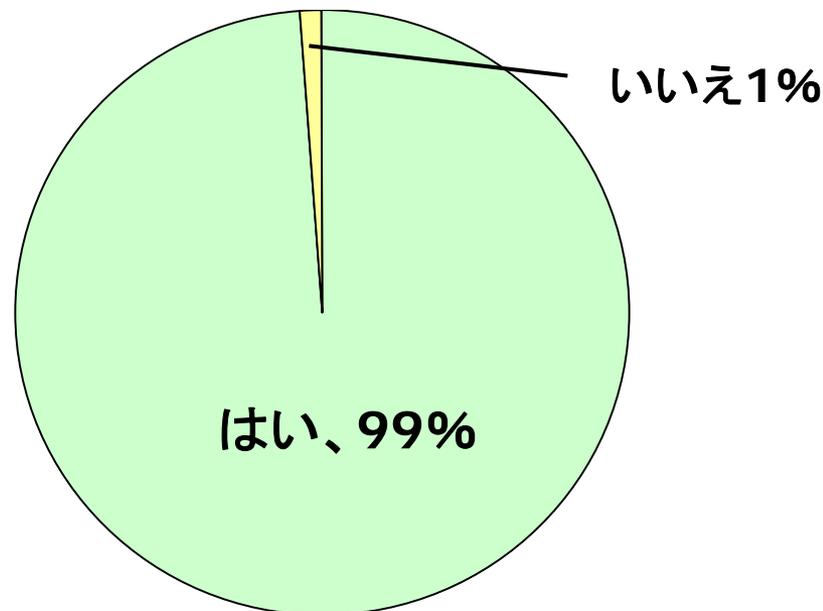
ほぼ全ての自治体が、幼稚園教育と小学校教育の接続は、幼稚園が義務教育及びその後の教育の基礎を培う上で重要であると認識している。

●各都道府県



〔 都道府県(47) 〕

●市町村(政令指定都市・中核都市含む)



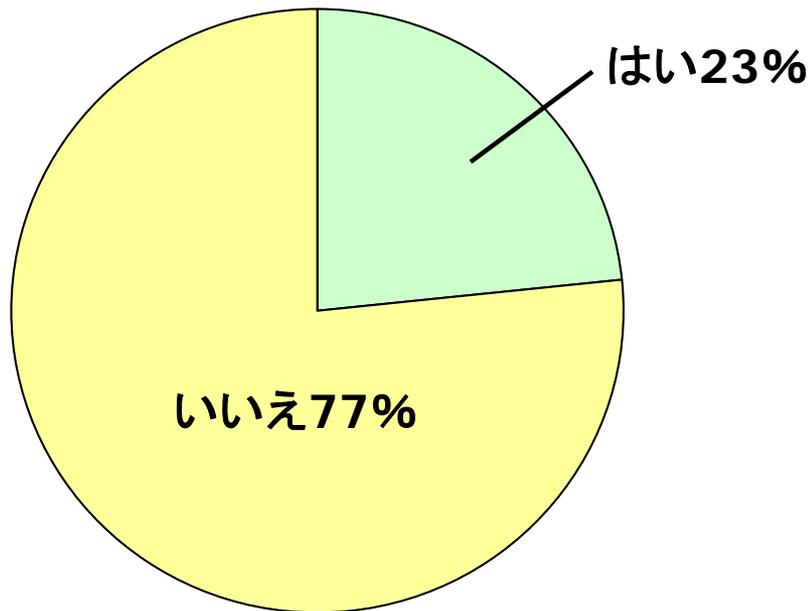
〔 市町村(1346)、政令都市(17)、中核都市(1) 〕

## 2、教育課程上の接続のための取り組みを行っているか

〔 文部科学省:平成21年12月調べ 〕

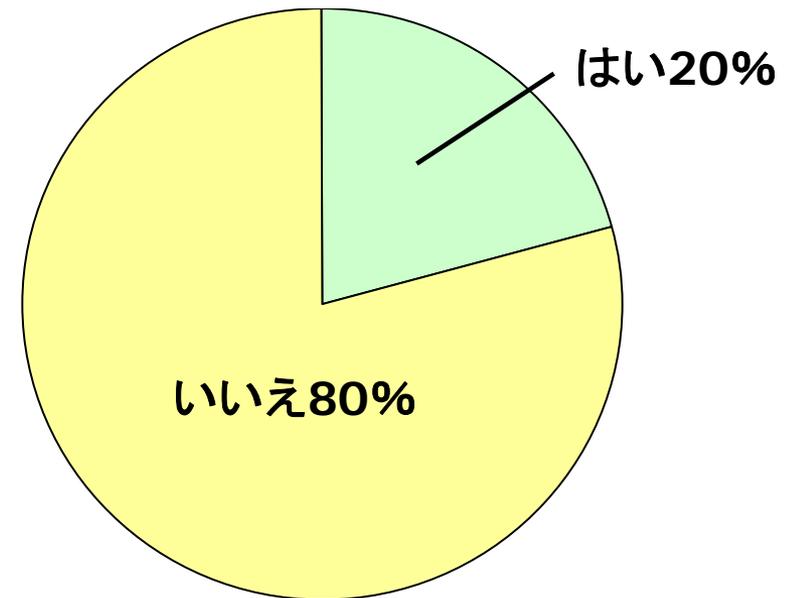
ほとんどの都道府県、市町村で幼稚園教育と小学校教育の接続のための取り組みが行われていない。

●「教育課程編成のモデル・手法等を示していますか」に対する都道府県の回答



〔 都道府県(47) 〕

●「接続のために取り組みが行われていますか」に対する市町村、政令都市、中核都市の回答



〔 市町村(1346)、政令都市(17)、中核都市(1) 〕

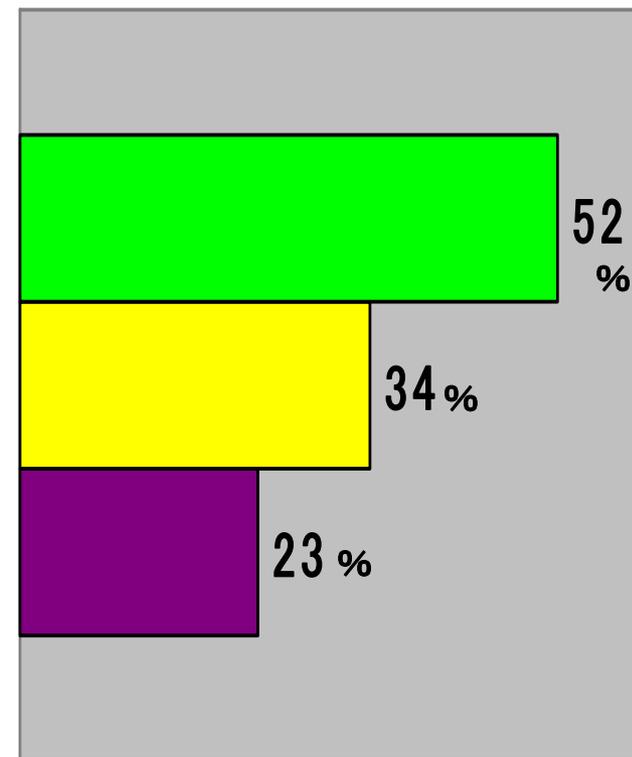
### 3、教育課程上の接続のための取り組みが行われていないのはなぜか

〔 文部科学省：平成21年12月調べ 〕

幼小接続の重要性を認識しながらその取り組みが進んでいない理由は、

- ・幼稚園と小学校の教育課程の接続関係が分からない
- ・幼稚園教育と小学校教育の違いが十分理解されていない
- ・(このため)教育課程の接続に積極的になれないことがあげられる。

- 接続関係を具体的にするのが難しい
  - 十分理解しているとはいえない
  - 積極的ではない
- (複数回答)



〔市町村(1346)、政令都市(17)、中核都市(1)〕

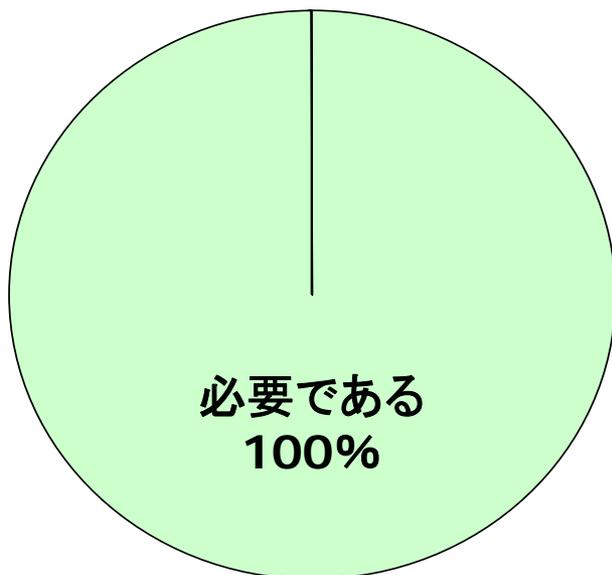
※都道府県については調査未実施

## 4、幼小接続を推進するため、特定の時期を接続期として捉え、双方が協力して教育課程を編成していくことが必要か

[ 文部科学省：平成21年12月調べ ]

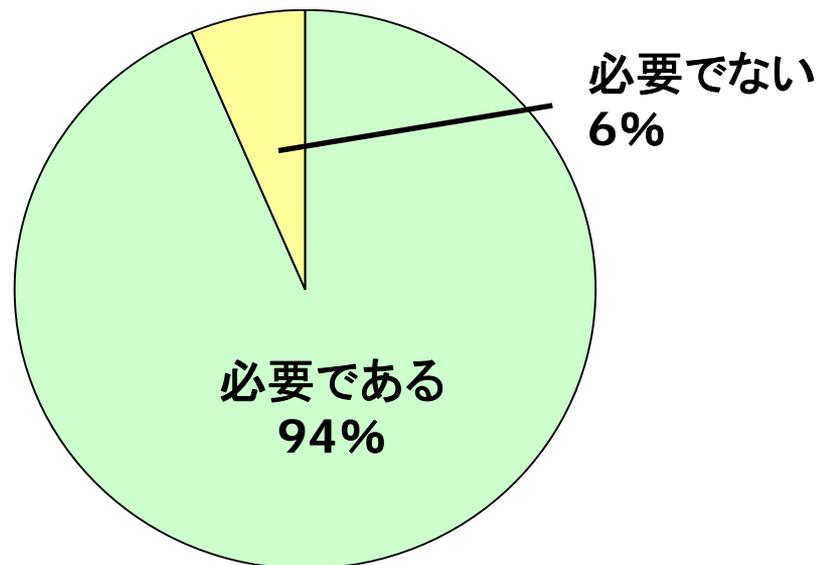
ほぼ全ての自治体が、幼稚園教育と小学校教育の接続のため、双方にまたがる「接続期」を設け、幼小が協力して教育課程を編成する必要があると考えている。

●都道府県



[ 都道府県(47) ]

●各市町村、指定都市、中核都市



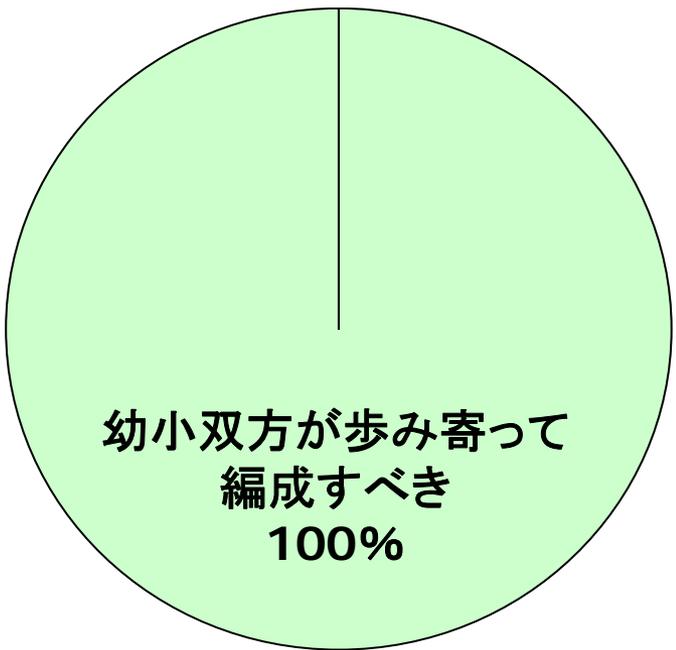
[ 市町村(1346)、政令都市(17)、中核都市(1) ]

# 5、幼稚園と小学校の教育課程の接続を推進していくために、大切だと 思うことはなにか

〔 文部科学省：平成21年12月調べ 〕

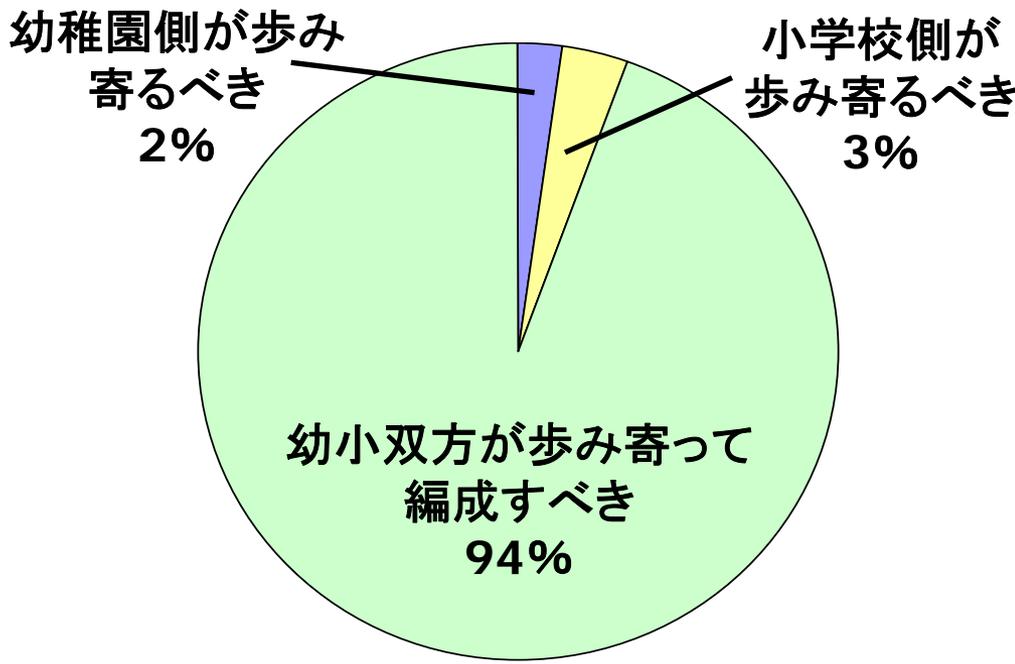
ほぼ全ての自治体が、「接続期」の教育課程は幼稚園と小学校が  
歩み寄って編成すべきであり、一方が他方に合わせるべきではな  
いと考えている。

●各都道府県



〔 都道府県(47) 〕

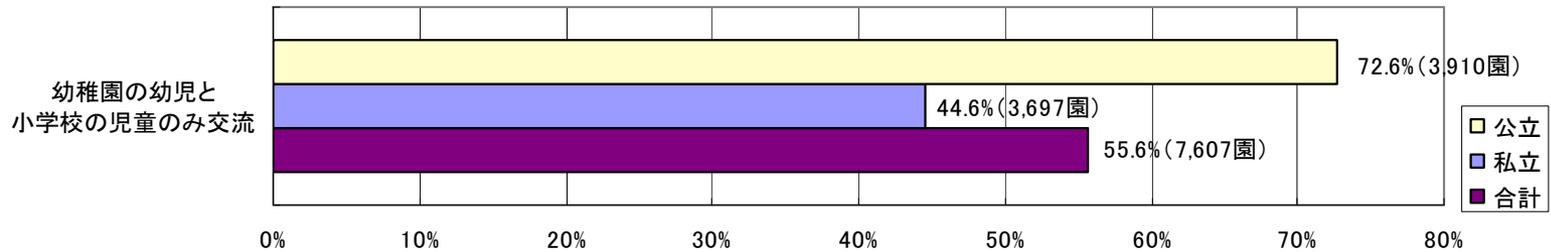
●市町村(政令指定都市・中核都市含む)



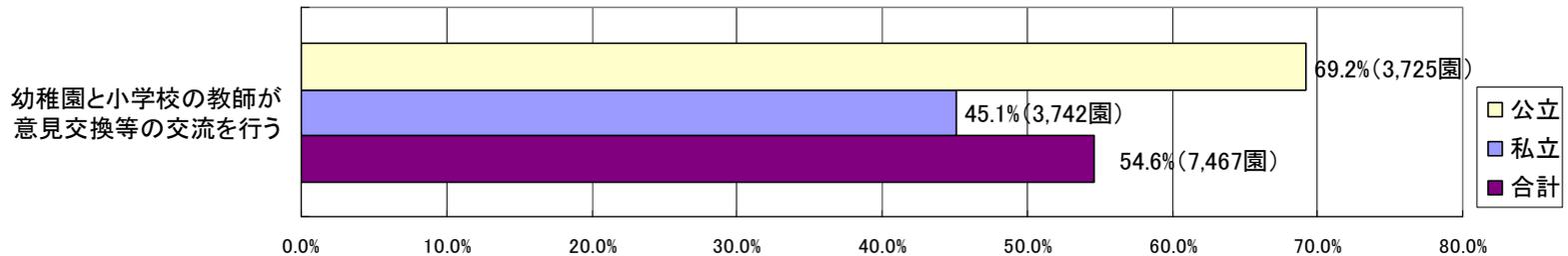
〔市町村(1346)、政令都市(17)、中核都市(1)〕

# 幼小の交流状況

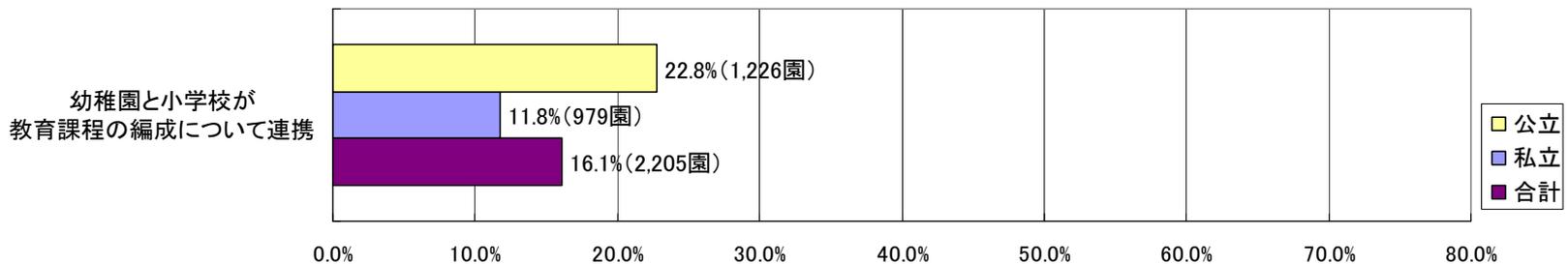
## ○幼児と児童の交流状況



## ○教師同士の交流状況



## ○教育課程の編成に関する工夫の状況

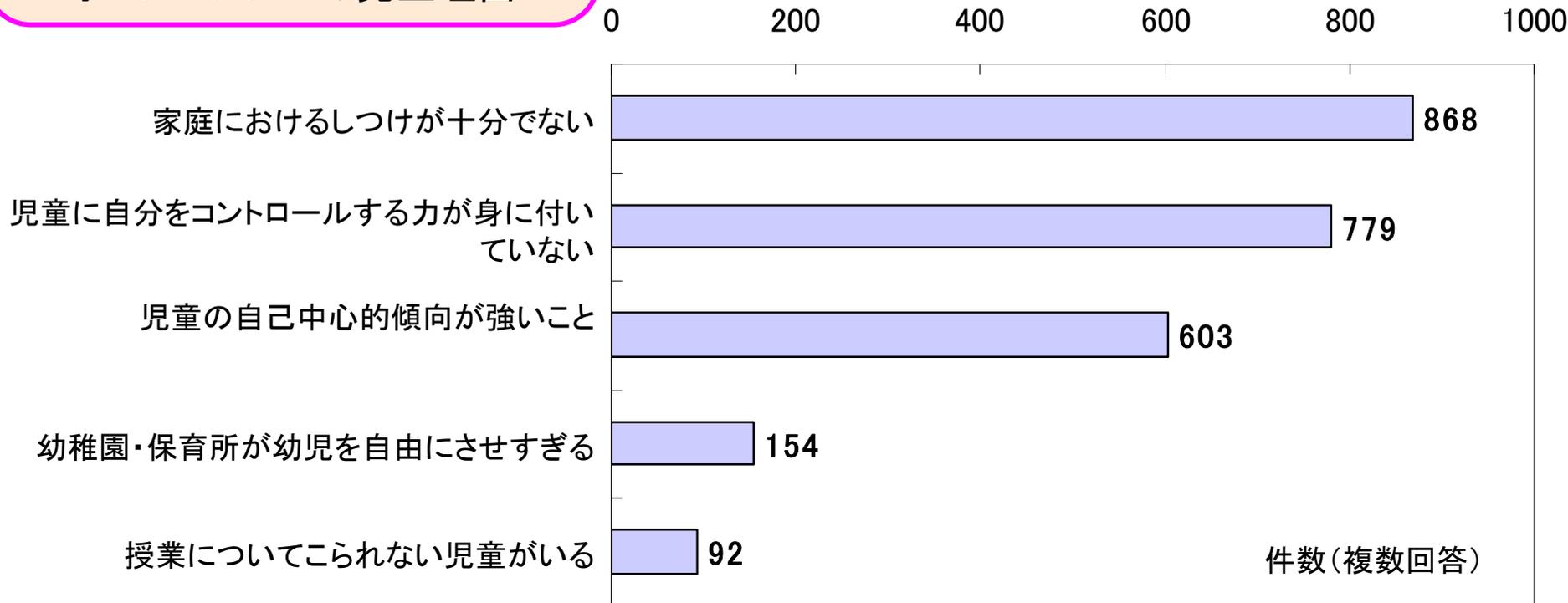


(出典) 文科省幼児教育課「平成20年度幼児教育実態調査」

# 「小1プロブレム」と幼小接続

- ・「小1プロブレム」発生の主要因は「家庭のしつけ」や児童の自己抑制に関するもの。
- ・幼稚園は、集団における基本的な生活習慣を育成し、小学校は、幼稚園教育を踏まえ、規律ある学校生活を送ることができるよう指導することが求められる。
- ・また、子どもの状況を幼小が共有するなど、学校間の連携協力が不可欠。

## 小1プロブレムの発生理由



・東京学芸大学の調査(抜粋)(代表大伴潔 特別教育研究経費・平成20年3月)

・調査対象...全市町村教育委員会(回答市町村1,156)

・本調査における「小1プロブレム」の定義:「入学したばかりの1年生で、集団行動がとれない、授業中座ってられない、話を聞かないなどの状態が数ヶ月継続する」

# 幼児期の教育と小学校教育の接続の現状と課題

## (現状)

- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園の教育と小学校以降の教育には、様々な「違い」が存在（「遊びを通した総合的な教育」と「教科教育」など）。
- ・ この「違い」は発達段階に応じた適切な教育を行う上で必要なもの。



## (課題)

- 一方、学校現場では、この「違い」によって、
- ・ 小学校進学時にとまどう児童や、適応が難しい児童がみられる
  - ・ 両校種の「違い」が強く意識され、接続のための取り組みが進みにくい
  - ・ 幼児期の教育と小学校教育との接続関係がよく分からない
- との指摘がある。



幼稚園・保育所・認定こども園の教育課程と小学校教育課程との関係を明確にし、それを踏まえた教育方法を実践する必要がある。



「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議」の設置

幼稚園・保育所・認定こども園の教育と小学校教育における

子どもの発達と学びの連続の在り方等の検討。